

木と木の仕事の話

(株)オクラ こゝろまでとこれから 社長 小椋敏光

26才の時、父親の木成会社に入り仕事を始めた。もともと伐採を主とした会社で、自分の仕事は伐り出した原木をおちこの製材工場に売り歩くことだった。

口約束で価格や等級を決めて、山から大型車で直送する。等級は日本農林規格によって決めるが、売り手と買い手なので、同じ丸太であっても見方が異なる。等級や直径に関して、必ずくい違いがおこり、争いと妥協を繰り返す日々だった。

ある時、今では考えられないような大きなクワ丸太が3本、山から出た。静岡の単板業者と話をまとめ、田島馬車から貨車で送ることになったが、いつまでたっても引き取らない。仕方がないので田島馬車から持ち帰って、後に製材してみると、入皮が入ってはいるものの立派な板が何枚もとれた。この入皮が嫌われた原因らしかったが、自分にはかえって板に強度を与えているように感じられ、これのどこが悪いのかと素直に思った。取引の基準として日本農林規格は必要と思うが、それが木の価値のすべてではない。

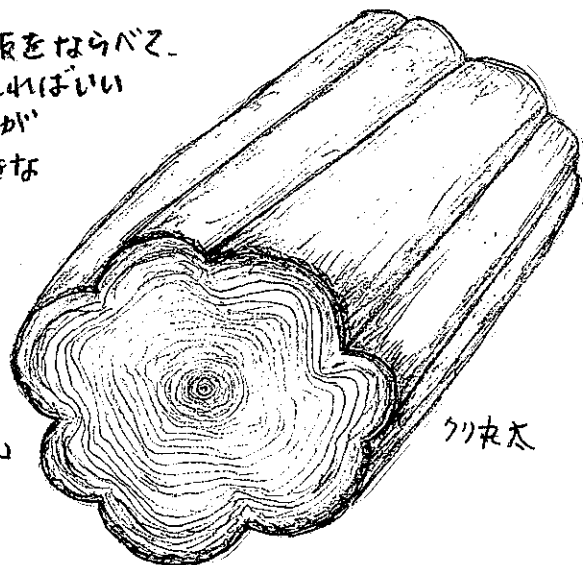
そんなことを思っていると彫刻家の植草さんが、じゃあ、板をならべて、自分が好きな値段をつけて、わかりやすく一般の人に売ればいいとアドバイスしてくれた。これがヒントとなって、きりの店が開店した。思えば、自分の丸太や板であっても、自分が好きな値段をつけて売ることができなかったのだ。

きりの店は、会社に革命的な変化をもたらした。木成販売のやり方や木材の利用そのものも大きく変っていった。

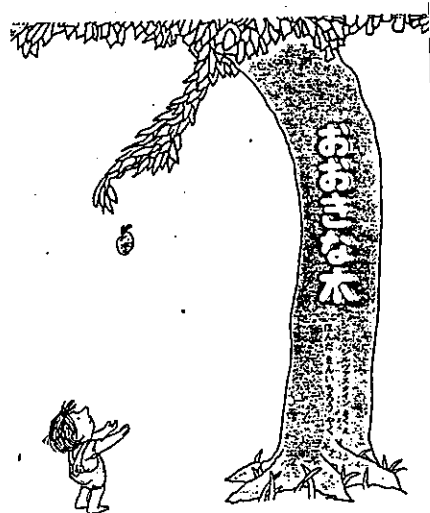
一方、父の入院に伴って大きな課題が浮び上ってきた。それまで木材の仕入れを一山単位で行ういわゆる「山を買う」ことでやってきたのだが、これがなかなか難しい。立木のあまごの多様な樹種の評価、山の立地条件による搬出経費の算出など「山師の教だけ山買いの方法がある」といわれ、何度おどめても理解できない。それにしろ、緻密な計算をしても、入札会場で

参加者の顔ぶれやその場の雰囲気次第で何百万円も金額を変更してしまう世界だ。

しかし、自分一人になっていざでもせらざるを得ない。自分のやり方でせろうと腹を決め、当時只見町希沢国有林の大型物件の入札にのぞんだ。4000万円を超える大型物件を二番札とわずか40万円位の差で落札することができた。同業者は皆、まくれだと思ったようだが、これで自信がつき、坂のさらに大きな山も一番札で落札。ようやく、材木屋になれた気がした。



クワ丸太



「The giving tree」より

その後、労災事故でキップ会社を廃業したり、大規模水害に見舞われたり様々なことがあったが、うちの会社は岐路に立たされるたびに助けくれる人があらわれたり、地域に守られていつまでたつてくることができた。

「月刊木くぱり」という小冊子を作っている時、シエル・シレバスタインという童話作家の The giving tree という物語に出会った。これはまさに私達がさんざん伐採してきた広葉樹の大径木のことに思った。実は、樹に一番助けられてやってこれたのだと思う。

貸付、借付」という言葉があるが、あまり助けられてばかりの借り分人生では、たとえ借金がなくても会社はつぶれてしまう気がする。これからは、樹に恩返し、人を助け、地域を守る会社でありたいと願っている。

古くから会社を支えてくれた古参の社員達に感謝しながら若い人を盛り立て、未来に続く会社にしたいの

お客様方の長年のご愛顧にじより御礼申し上げます。

メンバー紹介

以前、きこりの店通信で紹介させていただいてから年月が経ちました。
そこで今回は、現在の株式会社オグラで働くメンバーをご紹介します。

住宅部 幸林ホーム



きみお
公男さん 広野公男

専務。社長とともに住宅建築を担っている。勤務40年になり、以前は製材や木材乾燥などの仕事もしていた。木はそれぞれの良さがあってなんでも好き。



社長 小椋敏光

父のあとを継ぎ社長に。住宅建築関係の仕事や住まいの勉強会なども行っている。お客様と一緒に話して、お客様が好きな樹種が自分も好きだと感じるが、一つ挙げると、栗の素朴さが好き。

木材部



けいすけ
敬助さん 芳賀敬助

製材工場ができる前から働いて46年目のベテラン。元・元祖ハンドルマン(製材する人)。現在は、木材販売の営業を担当している。好きな木はヒメコマツ。柔らかく優しい感じが好き。



ゆたか
豊さん 渡部豊

工場長。丸太の仕入れや製材の指示、木材販売の営業などを担当。33年程前から働いている。好きな木は栗。男性的な木目が好ましい。また、自身で丸太を買い、テーブルにした木でもあり、思い入れがある。



山田さん 山田智也

現ハンドルマン。会社一の力持ち。3Dプリンターなどいろいろな技術に詳しい。製材を始めて3年、これからも日々頑張ります。好きな木はウォールナット、ホオ。色が濃くて一癖ある変わった木が好き。



よしゆき
良行さん 湯田良行

オグラで働いて45年。元祖ハンドルマン。昔は山仕事もしていた。現在は、製材や工場に関わるさまざまな仕事を担当。樹木についても詳しい。好きな木はミズメ。

きこりの店

店長 穴澤李佳

きこりの店の店長。お店の仕事全般、接客やネットショップの管理等を担当している。お客様と木を繋ぎ、木を好きになってもらえると嬉しい。好きな木は栗。見た目と耐久性があるところ。

よしこさん 小椋能子

きこりの店初代店長。現在は、お店での接客や経理などを担当している。好きな木は栃。長年、一番取り扱ってお客様に届けてきた樹種で思い出が深い。杣のきらきらした感じが好き。

宮本さん 宮本拓明

天板の製作や木材加工、大工、塗装など会社のなんでも屋さん。いろいろあって広野専務にスカウトされて勤務5年目。作ったものがお客さんに喜んでもらえるのが嬉しい。好きな木はカバ。

みきこさん 阿久津美紀子

定年後の時間の使い道としてパートで働いている。お店の商品の補充や仕入れ、オリジナル商品の塗装などを担当。お店で働くようになってから木に詳しくなった。好きな木はサクラ。

本多美咲

入社1年目、社会人も1年目の新人。専門学校で林業や木について学んだ後、木と山が好きで入社。木全般好き。最近の推しはオニグルミ。この紹介ページを作成しました。

自画像は恥ずかしかったので…

ふみおさん 阿久津文男

木材加工や家具製作をしているこの道50年のベテラン大工。好きな木はなんととっても栗。

今後とも株式会社オグラをよろしくお願いいたします。

商品情報

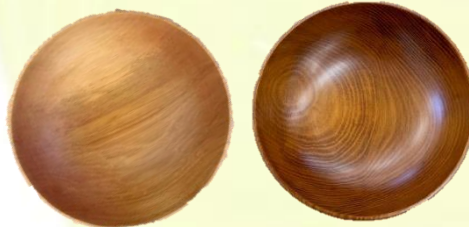
ティッシュボックス ¥7,150(税込)

山桜材で作ったティッシュボックスです。木目を際立たせるシンプルな形と思わず撫でたくなるような滑らかなカーブにこだわりました。



ブナのサラダボウル 2種

福島県檜枝岐産のブナ材を使用したサラダボウルです。現在、檜枝岐村ではブナの伐採はほとんどされておらず、檜枝岐産のブナ材は大変貴重です。このサラダボウルは伐採されていたときに作られ、長年保管されていたものです。拭き漆仕上げとウレタン塗装の2種類



↑ウレタン

↑拭き漆

¥11,000(税込)

¥16,500(税込)

です。

圧倒的な風格の栃天板

サイズ 1900×740×85

¥682,000(税込)

色合いや杳に老木の貫禄があります。ぱっと目を引くこぶ杳が華やかで魅力的です。虫の痕跡もこの木が長い時を生きてきた物語を感じさせます。

さくらのしおり ¥1,320

桜の木でできたシンプルなしおりです。真ん中は厚みをつけてある程度の強度を持たせながらも、本に挟みやすいよう端に向かって薄くなるように作りました。ひもは「おぜしかプロジェクト」の尾瀬鹿の革を活用しています。



商品開発室

商品開発室では新商品の開発に取り組んでいます。現在、耳付き材を使用したペットの餌台の開発に取り組んでいます。まだまだ試作の段階ですが、商品化に向けて鋭意製作中です。



栃の原板 ¥371,000~

奥会津の原生林の栃の木の原板です。伐採されてから50年以上の時を経て、きこりの店にやってきました。長さ3000mm、厚さ55mm、幅は広いもので990mmほどあります。

納品事例



しゅえん
酒縁さらしな様

川崎市多摩区登戸にあるこだわりの手打ちそばと厳選された日本酒のお店です。
メインカウンターとして 3800×450 mmの栓(センノキ)を納品させていただきました。そのすらっとした形、長さ、品のある木目、優しい色合い…お店の雰囲気ととても合っていていい感じに仕上がっています。



茨城県 O様
オニグルミの食器棚
W540×D400×H1560

開戸4枚、引き出し1杯
ご使用の食器が気持ちよくきちんと収納できるようにサイズを考えて作りました。キッチンの隙間にもぴったり。オニグルミのピンク色も丸い取手も可愛らしく、とても気に入っていただけました。

埼玉県 T様

ケヤキの一枚板天板 1900×640 mm、アイアンの脚、椅子、スツール

ケヤキは加工したら見違えるほど美しく仕上がりました。当店をご紹介して下さったご両親様にもとても好評いただいたとのこと。末永くご愛用いただけましたら幸いです。



建築事例

幸林ホーム



茨城県 T様邸

約35坪 2階建て

4月初めにお引渡しし、大変喜んでいただきました。

設計・施工のポイント

- ① 施主様が人生設計を考え、将来の家族の変化に対応できる間取りにした。
- ② 夏の通風・冬の陽だまりなど自然の恩恵をどん欲に取り入れた。階段踊り場の大きな北窓が夏涼しい家にしてくれる。
- ③ 太い天日乾燥木材を大工が木の癖をよんで組み上げる。リビングから棟木まで届く8mの棟持ち柱は圧巻。